

第12回(臨時)西谷地区学校づくり検討委員会

会議概要

開催日時	令和7年(2025年)11月17日(月)14:00~15:20
開催場所	西谷小学校2階 多目的室
出席者	【委員】12名(欠席)6名 【教育委員会事務局】5名
次第・議事	<p>1 開会</p> <p>2 会議の成立及び公開について</p> <p>3 報告</p> <p>(1) 市長面談について</p> <p>(2) 保護者・関係団体への報告について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
会議の主な結果	<p>・特認校の推進や課題、評価について、また、今後に必要となってくるIB教育の研究・調査についても、どのような組織体で議論していくか、コミスクや本委員会も含めて、よりよい体制を検討していく。</p> <p>・各団体への報告の後、IB教育「関心校」として登録し、登録しないと得られない情報を今後収集していく。都度丁寧に情報発信を行い、現在の関係者が抱えている、情報を知らないことから生じる不安の解消に努めていく。</p>
会議録(概要)	
委員長	<p>【1 開会】</p> <p>【2 会議の成立及び公開について】</p> <p>本会議は、委員の過半数の出席で成り立っている。委員数18名中、今日は12名出席で成立をしていることをご報告する。</p> <p>本日の議事等において、個人情報等に関する事項はないため、公開とする。</p> <p>本日は2人の傍聴希望者がおられるのでご報告する。</p>
副委員長	<p>【3 報告】</p> <p>(1) 市長面談について</p> <p>市長を面談に行って要望書を提出した。お忙しい中行っていただき感謝する。</p> <p>それぞれご感想をいただけたら嬉しい。</p> <p>すごく緊張したが、市長が温かく迎えてくれた。今回このような形で、今まで学校・地域・保護者・子どもたちみんなで頑張ってきた特色ある教育について、名前をつけて全面的に応援してくださるというお声をいただいたのは、非常に心強いことだなと感じた。</p> <p>国際バカロレア教育は、すごく偏差値が高い学校が取り入れているので、難しくて面白くなくなったら困るなということを懸念していたが、全然そうではなくて、子どもたちが伸び伸びと、自分たちから学べるような教育の方法に取り組んでいきたい、それを一緒にやる先生も育てる場所にしたい、ということで、西谷にとっても宝塚市にとってもあり</p>

	<p>がたいWINWINの関係である見通しを持ってもらえていて、とても嬉しかった。</p> <p>そこだけが得をするなら、西谷は人数が少なくて効果が低いとかですぐ取り止めになるかもだが、そうではなく、宝塚市全体の子どもや先生たちにとって良いものを作りたいという思いを、市長も教育委員会も持っておられ、公立学校にとって大事な学びの機会をどんどん進めていきたいと考えておられることをうれしく思った。</p>
委員	<p>私から市長へは、新しいことが始まるということについて、保護者としては不安が大きいとお伝えしたが、市長もバカラレア教育に関してすごく知識を持っておられたので、「不安になることはないと思いますよ」とおっしゃっていただき、少し気持ちが軽くなった。</p> <p>もちろん良いことにはどんどん取り組んでいったらいいのかなと思うが、不安を残したまま進んでいかないよう、教育委員会の方にも、保護者や先生方への説明をお願いする。日程を調整いただいたて感謝する。</p>
委員	<p>まず市長を身近に感じられた、そんな時間であった。私たちの話もよく聞いてくださり、ご自身の経験や国際的な視野から、お子さんが海外で国際バカラレア教育を経験してきたお話まで頂戴したので、私としてはすごく安心したというような感じであった。</p> <p>西谷の子たちのためにはもちろん、市内全域からそういった教育のもとにみんな来ていいんだよというような広げ方をし、それが進んでいたら、公共交通・通学の問題も少し解決の方向に進行していくだろうし、移住についても好循環していくきっかけになりそうな期待が私の中にあった。</p> <p>非常に西谷のことを考えてくださって、西谷を宝塚市の中で活性化することも大事だという市長の思いが伝わってきたので、応援していただけてありがたいという思いでいっぱいであった。</p>
委員長	<p>それぞれの感想を感謝する。私も同様の感想を持った。</p> <p>市長の知識・経験をお聞きし、理解しながら進めていけそうだという感想を持った。これからもっと知りたいねと思っている。</p> <p>(2) 保護者・関係団体への報告について</p> <p>各団体や地域の理解を深めるための説明が大事ではないかなということで、教育委員会に日程調整をいただいた。事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	～資料に沿って説明～
委員長	記者発表があるということで、それまでに急な日程ではあるが、各団体・地域への説明の日程を組んでいただいた。ご意見があればお伺いする。
副委員長	こども園の先生たちへの説明の時間はどうか。
事務局	保育時間との兼ね合いで、別途調整中である。

委員	報告の時間はどれくらいになるか。
事務局	事務局からの説明としては10～15分、その後に質疑応答で、質疑がどれくらい出るかによる。
委員	10～15分ではなかなか理解できるものではない。もう少し長く、分かりやすい説明を希望する。
事務局	<p>実は国際バカロレアについては、公開されている情報が限られている。ネットで拾える情報はごく一部である。</p> <p>詳細を知っていくためにも3段階のステップを踏む必要がある。まずは「関心校」。そうなれば色々な情報が無料で得られるようになるが、登録しないことにはもらえないし、それを対外的に資料として用いることもできない。</p> <p>HP等で公開されている情報ばかりなので問題ないとは思うが、厳密には「国際バカロレア」という言葉を使ったものは、すべて残しておかないといけないらしい。そういうわけで、今時点では我々も表面的な部分しか説明できず、資料を用意するのも難しい。</p> <p>各関係団体への説明が済めば、「関心校」として登録する。そうすれば情報が得られて、作成した資料も提供できるようになり、さらに噛み碎いた説明ができると思うが、今回は短時間で概要だけの説明をさせていただければと思う。</p> <p>西谷地区学校づくり検討委員会として、特認校の導入と特色教育としてバカロレアに取り組んでいこうという要望、この大きな2点の取組が終えたことから、今後の仕組みやメンバー構成についても、皆さん方にまたご意見をいただけたらと思う。少し看板をつければ、国際バカロレア調査研究会とかそんな名前に変えることによって、登録しやすくなり、また理解も深まるのかなと思うので、後程ご意見をいただきたい。</p>
委員長	<p>教育を受けていく側、主体になるのが保護者であり子どもたちであるため、その理解が一番重要であると考える。</p> <p>地域はもちろん応援するが、学校の全面的な協力が必要である。そのあたりが、資料が作成できない今時点では、少し難しいかもしれない。</p>
事務局	27日のまち協への説明が終われば、広くこの西谷地域への説明が終わったことになる。そこで特段ご意見がなければ、すぐに関心校の登録をしようと思う。関係団体として合わせて登録するため、その範囲内で資料が提供・活用できるようになる。
委員	少し後ろ向きな意見で申し訳ないが、関心校として登録し、詳細な情報を得て、それを見た時点で「これは無理だろう」「できないだろう」となった時、ストップできるのか。ペナルティが発生するのか。
事務局	関心校、候補校、認定校、というステップがあるが、どの段階でもいつでもやめることは可能である。

委員長	<p>報告事項に対して、他に意見等なければ次に進める。</p> <p>【3 その他】</p> <p>この会の設置要綱にあるように、何が西谷ができるかということをずっと検討してきて、教育長に特認校制度導入を求める意見書を提出し、今年から動き出した。来年度は本格的に実施となる。実現してよかったです。</p> <p>もう1つは、ただ実施するだけではなく、この西谷の環境を生かした特色ある教育、そういうものをを目指して取り組んでいくことについても意見書に記し、本年度いろいろと協議してきた中で、このバカロレア教育というものが良いのではないかということ、要望書を提出できた。</p> <p>そういうわけで、西谷地区学校づくり検討委員会としての大きな役割は果たせたと思う。4月に申し上げたとおり、この会は時限的な組織であり、教育の中身を検討するのではなく、我々ではないので、役目は終えられたと考えるが、その辺りについて、皆さんのご意見を伺いたい。</p> <p>先ほど事務局から「会の名称」という話があつたが、説明いただけるか。</p>
事務局	<p>西谷地区IB教育調査研究委員会とか、そうした名前に変更すれば、目的が明確なので登録しやすく、併せて意識醸成もしやすいかと思う。</p> <p>関心校から候補校、候補校から認定校になるときに、地域や保護者へのインタビューもあるということである。</p>
事務局	<p>これまでこの検討委員会で報告していた特認校制度については、今後コミスク（学校運営協議会）の方でさせていただこうと考えている。</p>
委員	<p>今、毎日のように特認校制度の見学に来られている。</p> <p>去年は1年生とそのきょうだい、今年募集しているのが、全学年である。色々と感じるところがあり、どんな子が希望しているのかということも含めて、検証がされるべきではと思う。まだ全学年が入ってきていない。やはり制度を導入してよかったですのかどうかとか、全学年が入ってきてから検証すべきかなと。そこで課題があったときに、コミスクで意見を出し合って進めるのか、そうでないのか。</p> <p>この会は、あくまでも複式を解消して、子どもたちの人数を増やして、何とかこの教育をもう少し発展させていこうとやってきた。バカロレアというのは、人数を増やすかどうかということとはまた違うと思っている。結果として、それで増えるかどうかは別として。</p> <p>今はその特認校制度によって増やそうというふうに頑張ってきたので、そのところの関係がどうなるのかを少し教えていただきたいというか、皆さん考えていただきたい。</p> <p>それと、IB教育の会ができるとき、資料をもらうために会を発足ということはわかったが、学校とその会との関係はどうなるのか。教育課程は学校で決めて、校長が編制するというのは決まっている。そのところよりも優先されるのか。</p> <p>職員には、まだ中身が分からないままにスタートラインに立て、ということになってい</p>

	<p>く。しかし、聞かなかつたら中身もわからないから、とりあえず聞くところには立とうと私は説明している。聞いた後、足踏みするのもいいし、結局できないからやめるのもいい。とりあえず聞いてみないと事が進まない、と言っている。ただ、結局学校としては「難しいな」と思っても、新しい会議体がどんどん進めていこうとなってそこに開きが出たら、どう埋めていったらいいのかなという心配はある。</p> <p>一方で、特認校で来る子に、そういう教育についても説明しなくてはいけない。複式や特認校の説明に加えて説明が必要になる。その辺は少し心配するというか、もう少し見えるような形ですっきりしたら、職員にも説明しやすいと思うところである。</p> <p>委員長 確かに、資料がなく、情報が少ない中で、その情報をもらうために組織がいるということを頭では理解していても、前に転がしていくのはなかなか難しいと思う。地域は、やって欲しいという思いは強いが、PTCAとか校長先生含め学校の先生方の理解というのがないとなかなか進められないことである。今の校長先生のお話はよく分かる。</p> <p>特認校制度についてはコミスクの方で今後していただけたらと思っていたが、そのあたりはどうか。</p> <p>委員 校長先生がおっしゃる通りで、今回こうやって新しい教育のあり方を導入するときに、一番しんどいのは先生方だと思う。おそらくこれが導入されると決まっても、明日からどうしよう、どういうふうに入れていくかというところは、我々ではなく先生方だと思う。</p> <p>今年から特認校制度、数年前から始まった複式学級。まず複式学級の指導法によく先生方も慣れてきたというか、分かりだして取り組んでこられたところで、次は特認校制度で、南部の方からもお子さんを迎えるようになった。そのお子さんたちがここの学校にじむためには、先生方のフォローがより一層いると思う。</p> <p>そんな中で、また来年度からこの新しい教育を導入していこうかとなったら、本当に負担は大きいだろうなと感じる。そこで学校運営協議会としては、もちろん地域の人間として、地域の皆さんの総意という形を持って協力も応援もするのだが、先生方の体力や前向きなお気持ちとか努力とか、そういったものとの調和がうまくいかなかったら、なかなかしんどいスタートしていくのだろうなというのは懸念しているところである。</p> <p>来年は特に特認校制度が全学年に広がるというところで、その形と複式学級の形が、この1年間、きっちりと定着されていって、これで本格的なスタートになると思うので、そちらの運営については、コミスクの方でしっかりと協議なり話なりを進めるのは、ここを引き継いでいけると思うが、この新しい教育方針については、直接的には学校運営協議会の話ではまだないのかなと思う。</p> <p>委員長 この学校づくり検討委員会を立ち上げたときの趣旨からすると、いわゆる「どうしていくか」というところだったので、中身まで踏み込んでというのは、当初からなかった。今言われたように、導入したけれどもどうだったのかという検証をするということについては、念頭にはなかったが、検証するのはどこなのかと言われると、ここである気もしてくるし、どうなのか。皆さんの意見はどうか。</p> <p>今の複式学級、特認校、プラスアルファ特色ある学校づくりをやろうとしていることに</p>
--	--

	ついて、率直な意見を伺えればと思う。
委員	自分も経験したことがないことだから不安がある。複式学級もそうだった。学校の先生方における負担が加わるのだとなれば、その先生方に子どもを見ていただいている者として、大変なのかなと思ってしまうところはある。
委員	先日のやっちゃん西谷Dayで、特認校制度のブースに来られた保護者の方、2人ほどとお話しした。宝塚市外の方で、今の学校が行きづらく、引っ越ししてこちらの特認校制度を利用したいという思いを聞いた。多分、複式学級とともに勉強して見学に来られていたと思うので、さらにバカロレア教育というのが乗っかってくると、情報が多くすぎて、良い風に捉えてもらえたらいいが、躊躇されるご家庭も出てくるかもしれない、と少し思う。
副委員長	<p>組織については少し脇に置くが、バカロレア教育のことは、多分そんなに難しく考えなくてもいいのかなと思う。</p> <p>市長にお会いしたときも、例えば海外に赴任したりして行っている子たちが自分の母国に戻って進学するときも困らないように、そういう共通規格で勉強してきた、インターナショナルスクールでバカロレア教育の中で勉強してきたから、次の例えば大学とか高校とか受け入れてください、そういうための規格なので、何か特別新しいことをするという感じの教育ではなさそうであった。</p> <p>私も少し図書館で調べてみた。どんな中身かというと、何かすごく新しいことというより、やはり子どもと先生がしっかり関係を作り、一人ひとりがどんな関心事をもって、今学ぼうとしているかを先生がしっかりとつかみ、子どもも先生と信頼関係を作り、学ぶという、まさに複式の難しい中で先生たちがやってくださっていることを、ちゃんと言葉にして大事にするという教育かなというふうに思った。何かさらに大変な足かせが入るとかではなくむしろもっと自由にできそうかなと。この仕組みと色々な教育技術が、先生方の役に立つのではないかなど、そういう前向きな感じを持っている。</p> <p>私たちが不安を払拭するためには、やはり見に行くしかないと、公立の小・中学校でやっているところを、地域、保護者、先生方と一緒に見に行って考えるのが一番いいかなと思う。</p>
委員	<p>やる前から負担になると決めつけるのもどうかと思っている。</p> <p>まだ自身もよく理解はしていないが、例えば丸山湿原に行っている子どもたちが保全の会の方に「今度はこれをやる」と全体の目標を聞いて連れていくつもらうところが、行く一人ひとりの子どもが、「自分は今回ちょっと珍しい花を見つけたい」とか、一人ひとりが自分の探究するものを見つけて、見つけたものをみんなにお知らせするというような、そんなことだったら、今やっていることとあまり変わらないし、今やっていることに、さらに、個の学びが入ってくるからいいなとは思う。そういうものであって欲しいと思っている。それだったら、別に負担というよりも、今でもやつたらいいことだし、当然できると思う。だからやってみないと分からないことについては特に言うことはない。</p> <p>ところで、これから作る会と学校との関係はどうなるのか。学校には教科書をやらな</p>

	<p>ければいけないという大前提があるため、会で決めたからやるようにと言われても難しいのではと思う。探究を教科書のどこにどう入れるのかというのも、いずれはやっていかなくてはいけないとは思うが。</p> <p>「意見は言うけど、やるのは学校だから任せる」ということなのか、それともここが決定機関となるのか。立ち位置を明確にしてほしい。</p> <p>学校の運営方針を承認してもらうのは運営協議会の役割なので、そとの関係性も整理しておいてほしいと思う。</p> <p>事務局</p> <p>順にお話しする。</p> <p>まず複式学級については、国の制度上の問題であるので、ここで議論できるものではない。課題等があれば、場合によっては学校と教育委員会から県や国に要望していくような仕組みである。</p> <p>次に特認校制度の振り返りについて。確かにこの会では難しいところである。導入に向けての議論ができたとしても、振り返り、いわゆる課題を見つけたとき、その課題は個人にかかることがあるため、学校・教育委員会での対応となる。制度の方向性が変わらるようなときには、こうした会あるいはコミスクの方で一定の検討が必要なのかなと思うが、課題の整理・振り返りといったところは、学校と教育委員会がしっかりやっていく、そういうものであると考える。</p> <p>次にIBを今後の進め方の中で、ここが意思決定機関になるのかということについては、決してそうはならない。学校と地域では、それぞれが検討する内容が違ってくる。総合的な調整役、全体的に報告等の役割を担い、地域としての関わり方というのを検討していただく場としていきたい、そういう整理である。</p> <p>現時点で分からぬことがたくさんあって確かに不安に思われるかもしれないが、これからどんどん情報が入ってくるようになる。</p> <p>「国際バカロレア」と言われてもよくわからないだろうから、「国際標準的な教育スタイル」と言った方が分かりやすいかもしれない。決して特別な何かを上乗せしていくことではなく、今の学習指導要領を十分に生かし活用しながら、その範囲の中で世界標準の探究学習について、どういうふうに各教科に落とし込んでいったらいいのかという、その方向性などをIBの方から示してもらう、そうしたものを研修を受けて先生たちが習得していく。地域の皆様方は学校をどう支援し、保護者は子どもとどう関わっていくか。そういうところをしっかり追究していくというのが、この国際バカロレアの進め方となってくる。</p> <p>今後情報を入手できるようになれば、しっかりと教育委員会が噛み砕いて皆様方に十分理解いただけるような説明を行っていきたい。</p> <p>副委員長</p> <p>姫路市教委と特認校である筋野小学校の場合は、コミスクとは別に、やはり特認校制度や運用についての委員会を年2回持っておられたと聞いた。募集方法とか、子どもとの、受け入れ方とか学校の困り感とか地域のサポートとかそういうのを話し合う会だと。だから、コミスクでないそいうったことが話し合える場所は必要ではないかと思った。</p>
--	---

委員長	<p>時間が迫っており、まとめる必要がある。</p> <p>国際標準であるバカロレア教育の情報を得るための組織となっていくことについて理解が得られた。そのうえで出てきている課題については整理していただき、それぞれの役割については、教育の中身は現場である学校、そして我々地域は応援する、教育委員会には調整をしっかりとやっていただきたいと思う。</p>
副委員長	関心校になるためには組織再編が必須なのか。
事務局	<p>必須ということではないが、登録申請にあたり、違和感のないような団体にすることで資料を得やすくなるだろうということと、もう一つは、この地域全体での意識醸成のために、分かりやすい名前が良いのではということである。</p> <p>西谷に似通った環境でバカロレア教育に取り組んでいる高知県香美市に視察に行ってきたが、研修等に地域も保護者も関わっていた。地域丸ごとで取り組む体制を作っていく機運を高めるために、名称変更が機運を高めると考え提案している次第である。</p>
委員長	<p>少し時間をいただいて、メンバー構成についても今まで行くのかなど、皆さんと話し合いながら進めていきたい。</p> <p>本日いただいた色々な意見に配慮いただき、教育委員会でまた調整等お願いする。それでは、本日はここまでとするが、良いか。</p> <p>では、12回目となる本日の検討委員会を閉じさせていただく。事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>タイトなスケジュールの中、たくさんのご意見を感謝する。</p> <p>次回の日程についてはまたメール等で調整させていただく。</p> <p>特認校制度の令和8年度募集の〆切について、11月28日までに手続きを終えもらうようにと、保護者の方に一斉に案内している。学校に問合せが増えるかもしれないが、ご協力をお願いする。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>